

ルンビニー園マヤ堂考古学調査

着々と進む現地での作業



調査作業を進める現地スタッフ

本会は、平成五年十一月二十八日から十二月四日までの七日間、全日本仏教会ルンビニー園代表視察団をネパールに派遣、復興事業の進捗状況を視察した。一行は日谷理事長を団長に、各宗派、県仏からの代表者二十四名。バンコク、カトマンズを経て、十一月三十日にルンビニーの現地へ到着、マヤ堂の考古学調査をつぶさに視察した。翌十二月一日にカトマンズに戻った一行は、在ネパール日本大使による歓迎会に臨んだ。同二日には、ネパール国コイララ首相と会見、LDT（ルンビニー開発トラスト）との交歓会、記者会見等が行われた。多大な成果をあげた視察団は、バンコクを經由して、十二月四日帰国の途について、この視察団に参加した、浄土真宗本願寺の中山知見広報部長は、現地の様子を詳しく報告している（四頁）。

謹賀新年

財団法人

全日本仏教会

会 長 山田 惠 諦
副 会 長 藤井 龍 心

蓮生 善 隆
鶴飼 慶 範
大野 可 圓
中村 啓 識
黒田 英 之
平川 彰
日谷 周 暎

常務理事

服部 栄 隆
松村 了 昌
細川 信 元
成田 有 恒
佐々木 孝 一
有馬 清 雄
菊嶋 慶 雄
川井 匡 俊

常務理事会開催

去る十一月十九日午後一時から、東京グランドホテルで、常務理事会が開催された。日谷周暎理事長を議長に、また佐々木孝一、松村了昌の両師を議事録署名人に出選、議事に入った。



開かれた常務理事会

議案第一号「平成六年度歳入歳出予算の大綱について承認を求める件」

日谷議長より上程、斎藤財務部長が来年度予算案の大綱を歳入歳出の両面に亙り詳細に説明、原案通り承認された。

議案第二号「ルンビニー園マヤ堂修復事業の今後の進め方について意見を求める件」

日谷議長より上程、木内国際文化部長及び川井ルンビニー委員長が、マヤ堂考古学調査の進捗状況ならびに、十一月下旬に予定されている全仏代表団のルンビニー園視察について詳細な説明を行った。

出席者から質問があった後、事務局が説明した方向で、今後の事業を進めていくことが承認された。

報告事項①「平成六年度税制改正等について」

川島総務部長が、今年八月の細川内閣発足により、初めて連立政権下で迎えることになった税制改正の動向を、政局の流れや日本宗教連盟の活動等をも紹介しながら、詳細に報告した。

報告事項②「事務総局各部報告」

各担当部長より報告された。

伊藤通明
小倉宗徳
上村正剛
白川謙敬
新居祐政
多紀穎信
川田聖定

理事

伊東盛熙
森田禪朗
長谷川霊信
小滝了信
山田勝義
藤田政昭
江川辰三
安藤正晃
五十嵐意承
梨本哲雄
江連俊則
柳下隆侃
石上博貫
増田貞圓

監事

岩間湛正
浅井侃雄
井桁雄弘

事務総局

事務総長
他
職員
籾本宏昌

姿変えるマヤ堂に感動新た

浄土真宗
本願寺派
広報部長
中山 知見

マヤ堂は、昨年十月から始まった発掘調査
工事で様子が一変していた。基壇の南側は三
分くらい掘られ、その底で現地の作業員十人
余りが黙々と作業を行っている。レンガを手
渡して運ぶ者、しゃがみこんで小さなへらと
ほうきを使いながらレンガをていねいに掘り
出す者。カトマンズで見た工事現場ののんび
りした作業風景とは、明らかに違う。どの顔
も真剣そのものだ。

基壇上にあるマヤ堂の天井や側壁の一部は
はずされ、屋根を覆っていた菩提樹の枝も切
られている。「私をめぐっていろいろあった



記念植樹する中山知見師

ようですが、ともかく発掘調査が始まってホ
ッと思いましたよ。おかげでいのちながらえそ
うです。新マヤ堂ができるまで私もがんばり
ますぞ」とマヤ堂の語りかける声が聞こえて
くるようで、いとおしさをおぼえる。

四年前、西本願寺の門徒を引率してルンビ
ニーを訪れたとき、マヤ堂は東側に根を張っ
た巨大な菩提樹の重さにあえいでいるかのよ
うだった。基壇の内部に大小無数の根が入り
込み、床は盛り上がり、壁面はいたるところ
ぼろぼろになっている。マヤ堂を植木鉢にし
て今なお生長を続ける菩提樹。このまま放置
すれば遅からず倒壊の道を辿ることは誰の目
にも明らかだった。

マヤ堂再建を決意

全仏が釈尊生誕の象徴的な建物であるマヤ
堂の再建に取り組むことを決定したのは五年
前のことである。ルンビニー園復興事業に全
仏として参画することを決めてから十年目の
ことだった。ながく苦しい道のりだったが、
「怒らず、急がず、諦めず」をモットーにネ

パール側とねばり強い交渉を重ねてきた事務
総局の最後の、かつ全仏の体力に見合った選
択であった。最初の頃はマヤ堂のある十五万
坪もの聖なる園の全面発掘調査、日本寺院の
建立などの事業を要請されていた。

しかし、道路、水道、電気といった工事を
行うのに不可欠な条件は不十分なままの状態
だった。今もその状態は変わっていない
が、ルンビニー開発トラスト(LDT)か
らの現状を度外視したともいえる要請に軽々
に応じることなく、慎重に分析して対応して
きた事務総局に敬意を表したい。

我われ視察団の一行は、考古学調査の指揮
をとる仏教考古学者の上坂悟氏(四四歳)と
助手役の荒川維久氏(三四歳)の案内で調査
現場をつぶさに視察した。昼下がりのしゃく
熱の太陽がまぶしい。西側の発掘溝では、ア
シカ王の時代であるマウルヤ朝のレンガ層
を掘りあてたという。それらのレンガは掘り
出され、一つ一つに番号をふって、再び埋め
戻される。気の遠くなるような、地道で忍耐
を要す作業なのである。「この時代のレンガ
は、現在ネパールで焼かれているものより格
段に品質がすぐれています。二千数百年前の
ものとはとても思えません。あの時代の技術
力はどこへ行ってしまったんでしょうね」と
上坂氏。確かに近代になって積み重ねられた上部の

つぶさに視察する一行



レンガよりもひとまわり大きく、光たくもある。団員の一人が「そうすると、この下あたりにマヤ夫人がお釈迦さまをお生みになったとき、右手をかけたと伝えられる無憂樹があったのですね」と問いかける。これに対して上坂氏は言葉少なく「もしかすると、マウルヤ期の下にある自然層からその木を取り囲んでいたレンガの枠が見つかるかもしれませんが、今の時点ではそこまで至っていませんのでなんとはいえませんが」とさりげない。

もしもその無憂樹の存在が確認できる遺構が発見された場合、世界的な大発見となることは間違いない。キリストは馬小屋でお生まれになったと伝えられているが、その場所はいくつもあり、歴史的に特定されているとはいえない。マホメットの場所もわかりである。説明を聞きながら二千五百年前にいざなわれたような思いにかられ、胸が熱くなる。世紀の大発見、釈迦生誕の地を確認“といった新聞の大見出しがまぶたに浮かぶ。しかし、上坂氏はあくまでも冷静だった。なにごともしなかつたかのようにもう一つの発掘溝に我われを導いた。あまり期待しない方がよいのかな…との思いもよぎる。

考古学調査スタート

考古学調査がスタートした最初の頃は、なにかもが大変だったという。作業員を募集したとき、ルンビニー周辺の農民が何百人も応募してきたため、断るのにひと苦労。発掘の経験者なし。イロハから教えずにはならない。「まずどのように作業するのかをゆくりやってみます。何回も。素直な人ばかりだから頼んだことはきちんとやってもらえます。ただレンガを一本にたくさん運ぶにはどうすればよいかといった発想はまったく期待できません」とのこと。そう言われてみ

ると、作業への取り組みは熱心でも日本人の目から見ると要領はすこぶる悪そうだ。

作業中、レンガの間からサソリが出てくることも珍しくない。現場の周辺にはキングコブラ、グリーンズネークなど猛毒をもつ蛇もたくさん生息している。かまればいのちも失いかねない恐ろしい生きものを見つけると作業員は決して殺さない。殺生するなかれ”など、仏教の思想で国を治めたアショカ王の精神が今も生きているのだろうか。「人間と動物が共存しているこそネパールですから」と荒川氏がほほえみながら言う。

発掘には、ネパール人の考古学者も大勢参加している。頼もしい助っ人かといえど、技術力はないようだ。考古学者としての知識、技術力は日本の中学校の考古学クラブ程度らしい。上坂、荒川の両氏は彼らに測量や図面の作成方法を教えながら調査を続けている。「正直に言って、現地のスタッフのいない方が仕事ははやく進みます。でもこの国の莫大な数の古代遺跡はほとんどが手つかずのまま。これから彼らにがんばってもらわないと」ときっぱり。マヤ堂の発掘調査は、最初の交渉では行わないことで合意していたが、ネパール民主化運動の後、トップが国王の弟から文部大臣に代わり、組織を再編して再出発したLDTで発言権を強めた文部省考古局

の強い要請があり、取り組まざるをえなくなつた。だが、彼らは考古学調査の実施計画を立てることができず、日本人考古学者の参加を求めてきた。マヤ堂再建には遠い道のりとなつたが、釈尊生誕地の確認という大きな目標ができたことを含め、ネパール考古学の発展につながる機縁となつたのである。

過酷な自然条件のもとで発掘に従事する上坂、荒川両氏の説明に、視察団員は少なからずカルチャーショックを受けたことは否めな



日谷理事長導師による法要

い。雨季の温度は摂氏四十八度にもなる。乾期の十二月でも日中は三十度に達する。とにかく暑い。最初の頃は「大変なんですね」「ほんとうですか」とにぎやかに言っていたが、しだいにみんな寡黙になつてしまった。

「マヤ堂が恋人」

そんなとき団員の一人が「便利な日本に住んでいるのが申しわけないような気持ちですが、強いてここで楽しいことといえば、なんでしょうか」と上坂氏に尋ねた。これに対して「独身の私にとって、マヤ堂が恋人のようなものですから。楽しみは発掘を進めるうちに、これまで抱いてきた疑問が一つ一つわかつてくる。これにまさる楽しみはありません」と、テレながらも青年のような口調で答えがえつてきた。

上坂氏の忙しきは並みたくないものではない。それには理由がある。LDTには、発展途上国につきものの金銭面でのよからぬ噂があつたこともあって、調査工費の支払い方法をどのようにするかがなかなか決まらなかつた。このためLDTと全仏の話し合いで最終的には、上坂氏に経費のマネジメントの一切を担当してもらうという事で合意した。考古学界ではあまり例のない合意である。このため上坂氏は、発掘の合い間をぬつ

て銀行へおもむき、全仏からの送金を受け取り、作業員への賃金の支払い、工事に必要な物資の調達などにかけて回り回っているのだ。

上坂氏ばかりではない。しゃく熱のもとで黙々と発掘に取り組む人たちのひたむきな努力は、必ずや近い将来建設に取りかかる新マヤ堂の完成で実を結ぶことになるにちがいない。

一行はマヤ堂から少し離れたところに新しく建設された仮堂に安置されている釈尊御生誕像の前で、日谷周暎理事長の導師のもと浄土真宗本願寺派の法式による「讃仏偈」の勤行を行った後、全員がマヤ堂から二百メートル離れた場所に一本ずつそれぞれの思いをこめてサラの若木を記念植樹した。

壮大な復興計画

マヤ堂視察の全日程を終えた一行は、聖なる園とルンビニーセンターを結ぶ運河にそつて宿舎となるルンビニー法華ホテルに向かつた。丹下健三氏の壮大なルンビニー園復興計画の一環として建設された運河であるが、単にコンボで溝が掘られただけのもの。護岸工事も手つかずのまま。あの構想はどこにいったらあつたのだろうか。計画が予定通りに着実に実施されていたらこのあたりにルンビニーセンター、あつちには文化センターの施

大使公邸で記念撮影



設が立ち並んでいることだろう。

荒涼としたルンビニーの平原の一角に赤レンガの大きな二つの建物が見えてきた。手前がインド政府が建設した博物館、その後方にあるのが日本の霊友会が建設した図書館である。この地は電燈用の電気がかろうじてインドから送られているが、インドで電気の需要が高まれば、たちまち停電となる。図書館の書籍を保管するために必要なクーラー用の電力は今も望むべくもないのが実情である。い

ずれもLDTの呼びかけに応じて建てられたもので、完成から十年もたっていない。

しかし、インフラの整備がまだの段階で着工したのはどう考えてもはやすぎたと言わざるをえない。二つとも完成以来、閉鎖されたままなのだ。朽ちるにまかせて放置された施設は、まさに「現代の廃きよ」。モダンで斬新なデザインであることがよけいに痛ましい。

だが、マヤ堂が再建されても決してそうしたことになるはずである。なぜならマヤ堂は全仏事務総局がいわれているように完成したその日から「ローソク一本」で運営をスタートさせることが可能である。世界の仏教徒はこぞってルンビニー園の象徴であるマヤ堂の再生を喜んでくれることだろう。試行錯誤はあったが、全仏の選択に間違いがなかったことをあらためて実感した次第である。

コイララ首相と会見

一方、視察団の一行は、ネパールの首都カトマンズでギリジャ・コイララ首相、LDTの理事長であるゴビンダ・ジョシイー文部大臣、スーリヤ・サキヤ副理事長とそれぞれ会見して、マヤ堂修復事業の進展に向けての相互理解とさらなる協力を要請するという大役を果たすことができた。また、ネパール駐在の伊藤大使からの暖かい激励、ご招宴を頂い

たことも忘れられない思い出となった。

とくにコイララ首相は「マヤ堂の復興は世界の仏教徒が待望しております。私がこの職にいるかぎりルンビニー復興事業が中断するようなことはありません。これからは前進あるのみです。しかし、インフラの整備が遅れているため計画がなかなか進みません。私も努力しますが、日本政府の強力な援助を期待しています」と語り、さらに、ルンビニーに近いバイラワ空港の国際空港化を「日本政府の援助で実現したい。みなさんからもぜひよろしく」としめくくった。文部大臣と会見したおりも同様の主旨の発言があり、団員を少なからず当惑させたが、日谷理事長はじめ全員が全仏のマヤ堂修復事業に対する同国政府の理解が確かなものであることの手ごたえを感じることができた。ハードスケジュールで二人の団員が病に臥したが、誰もが充実感をかみしめながら帰国の途についていたのである。ことしの秋からいよいよマヤ堂の再建に向けて本格的なスタートが切られようとしている。これまでの経過からしても前途は決して平たんなものではない。のりこえなくてはならないハードルもたくさんある。しかし、全仏とLDTのベルトはがっちりとかけられた。ゆるやかではあっても確実に回わり始めたのである。

年 新 賀 謹

臨濟宗妙心寺派
宗務本所

管 長	春見文勝
宗務總長	小倉宗徳
總務部長	羽賀文圭
教學部長	大野鉄宗
財務部長	本多道一
花園會 本部長	宮田正勝
法務部長	森弘宗
△大法会事務局▽	
副委員長	橋本玄進
副委員長	細川景一
總務部長	山中清洲
管待部長	山本健史
募財部長	中島義観

京都市右京区花園妙心寺町
〒616 〇七五(四六三)三二二一

天台宗務庁

天台座主	山田惠諦
宗務總長	杉谷義純
法參人部長	山本堯俊
財參務部長	植田惠秀
教學部長	小川晃勝
社參務部長	山田能裕
總參務部長	山田俊和

大津市坂本四丁目六番二号
〒520-01 〇七七五(七九)〇〇三二

真言宗智山派宗務庁
總本山智積院法務所

管 長	高井隆秀
宗務總長	上村正剛
總務部長	峯嶋能忍
法務部長	白石大峰
教學部長	真保龍敏
財務部長	中村義英
教化部長	田中聖賢
宗務出張所 別院執事	磯山福正

京都市東山区東大路七条下ル
東瓦町九六四
〒605 〇七五(五四)五三六一

真言宗豊山派宗務所

管 長	吉田俊誉
宗務總長	川田聖定
教務部長	小野塚幾澄
總務部長	白井正雄
財務部長	浅井侃雄
教化部長	杉山康信
綜合教化 研究所 事務局長	市橋俊昭

東京都文京区大塚五十四〇一八
〒112 〇三三(三九四五)〇六三九

謹 賀 新 年

總本山仁和寺
真言宗御室派

管門 長跡 吉田裕信

執行 宗務 長 田中純應

總務部 長 村田文英

執教學部 長 福島智秀

執行 財務部 長 堀川和海

〒616-0755
京都市右京区御室大内三三
FAX 〇七五(四六一)一五五〇
〇七五(四六四)四〇七五

顯本法華宗宗務院

管 長 古瀬日字

宗務 總長 石井義堅

宗務 次長 中村通義

教務部 長 山本学人

庶務部 長 大塚正純

社会部 長 小泉隆昭

財務部 長 白井謙光

〒606-0741
京都市左京区岩倉曙枝町九一
〇七四(七九一)七二七一
總本山妙満寺内

念法眞教教団
總本山金剛寺

燈 主 小倉靈現

〒538-0691
大阪市鶴見区緑三十四二二
〇六(九一二)二一〇一

孝道山本仏殿

統 理 岡野正貫

副統 理 岡野鄰子

〒221-0454
横浜市神奈川区鳥越三八
〇四五(四三二)一一〇一

浄土宗西山深草派
總本山誓願寺

法管 主 長 鶴飼慶範

執行 宗務 總長 深津実乗

〒604-0752
京都市中京区新京極桜之町四五三
〇七五(二二二)〇九五八

真言宗善通寺派宗務庁
總本山善通寺

法管 主 長 蓮生善隆

執行 宗務 總長 加藤勝真

〒765-0877
香川県善通寺市善通寺町三一三一
〇八七七(六一)〇一一一

謹 賀 新 年

<p>神奈川 神奈川 市中 区大 平町 九六 番 〒231 〇四五(六六一) 〇一六六六 西有寺内</p>	<p>事務局長 本間 孝康</p>	<p>同 佐藤 行信</p>	<p>同 柳下 隆侃</p>	<p>同 横山 敏明</p>	<p>副会長 小崎 竜雄</p>	<p>会 長 福永 隆昭</p> <p>神奈川県仏教会</p>
<p>事務局長 井桁 雄弘 大阪住吉区墨江三丁目十七番八号 大圓寺内 〒558 〇六(六七一) 三二五九 六二三四 FAX 〇六(六七三) 五〇〇四</p>	<p>事務局長 井桁 雄弘</p>	<p>同 卜半 幸三</p>	<p>同 北村 日照</p>	<p>同 西田 亨心</p>	<p>副会長 増田 貞圓</p>	<p>会 長 森田 禪朗</p> <p>大阪府仏教会</p>
<p>名古屋市中区新栄一―二―二一 曹流寺内 〒460 〇五二(二四一) 四七二二</p>	<p>同 岩田 文有</p>	<p>同 玉井 康之</p>	<p>副会長 牧 忍教</p>	<p>会 長 江川 辰三</p>	<p>代表管長 鈴木 鳳永</p>	<p>管 長 野澤 密巖</p> <p>宗務長 田中 真瑞</p> <p>庶務部長 鈴木 貴晶</p> <p>奈良県生駒郡平群町信貴山 二二八〇―一 〒636 〇七四五(七二二) 二二七七</p> <p>信貴山真言宗 総本山信貴山朝護孫子寺</p>
<p>浦和市高砂四―三―一八 〒336 〇〇四八(八六一) 二一三八 FAX 〇四八(八六四) 六六四九</p>	<p>専務理事 目黒 靖淳</p>	<p>同 酒井 文雄</p>	<p>副会長 河野 亮永</p>	<p>会 長 江連 俊則</p>	<p>旧会長 石上 博貫</p>	<p>事務局一同</p> <p>事務局一同</p> <p>新会長 伊村 隆恵</p> <p>静岡県佛教会</p>

謹 賀 新 年

新潟県仏教会

会 長 中村啓識

全仏評議員 田宮黎友

副会長 井口能晁

同 春日浩三

同 中島裕幸

同 野口日騰

同 今湊良徳

事務局 長 小林秀徳

〒940 長岡市上田町二二二五
〇二五八(三三三) 一五八六
徳聖寺内

愛媛県佛教会

会 長 村中成信

副会長 植田英瑞

同 谷本祥龍

監 査 吉川俊宏

同 中島義晃

事務局 長 高木英教

会 計 松本信見

役員 一同

〒791 松山市南吉田町一三〇六
〇八九九(七二) 二三七八
極楽寺内

東京都仏教連合会

会 長 岩崎宗秀

理事長 白川謙敬

事務局 長 菊地昌雄

事務局
東京都品川区西五反田三ノ五ノ十五
徳藏寺内

〒141 〇三三(四九一)二五七一
FAX 〇三三(七七九)五〇八四

岐阜県仏教会

〒500 岐阜市西野町三一
〇五八二(六六)七八〇三
本願寺岐阜別院内

兵庫県仏教会

会 長 高見寛康

副会長 大谷昭世

同 広瀬照晴

事務局 長 高橋恵俊

〒657 神戸市灘区原田通三丁目五ノ十八
〇七八(八六一) 四〇四四
金剛福寺内

真言宗大覚寺派 大本山大覚寺

管 長 上井寛円
門 長 岡田高功
宗 務 長 岡田高功
事 務 長 岡田高功

〒616 京都市右京区嵯峨大沢町四
〇七五(八七一) 〇〇七一

法相宗宗務所

貫 首 長 多川俊映

〒630 奈良市登大路町四八
〇七四二(二二二) 七七五五
興福寺内

年 新 賀 謹

真言宗智山派
大本山 川崎大師平間寺

貫 首 高橋 隆天

総 務 馬本 克美

院 代 原 隆 愿

執 事 野澤 隆 幸

〒川崎市中川崎区大師町四一四八
F A X 210 〇〇四四二二七六八
〇〇四四二二七六八
〇〇四四二二七六八
〇〇四四二二七六八
〇〇四四二二七六八
〇〇四四二二七六八
〇〇四四二二七六八

西 新井 大師

總 持 寺

東京都足立区西新井
〒123 〇三(三八九〇)二三四五

社団法人
全日本仏教婦人連盟

名誉会長 一條 智光

会長 山本 杉

理事 長友 廣和

専務理事 島田 喜久子

事務局 局長 林 惠智子

東京都豊島区北大塚二ノ二ノ一
〒170 〇三(三九一〇)一八八九
分室 東京都新宿区西新宿一ノ五ノ十二
新宿センタービル37F
(IN A 生命棟内)
〇三(三三四四)七六九四

財団法人
国際仏教興隆協会

名誉総裁 山田 惠 諦

理事長 川井 匡 俊

印度山 春見 文 勝

日本寺竺主 役員 一同

東京都目黒区中目黒五二四一
〒153 〇三(三七一一)七六〇八
五三 祐天寺内

妙見宗

管 長 野間 秀 昭

大阪府豊能郡能勢町野間中七一八
〒563 01 〇七二七(三七三〇)〇二八

黄檗宗務本院

管 長 奥田 行 朗
宗務総長 内藤 文 雄

宇治市五ヶ庄三番割三四
〒611 F A X 〇七七七(四三三三)三九〇〇
〇七七七(四三三三)六〇八八

総本山 金峯山寺

管 長 五條 順 教

奈良県吉野郡吉野町吉野山
〒639 31 〇七四六(三二二)八三七一

真言宗中山寺派

大本山 中山 寺

兵庫県宝塚市中山寺一十一一
〒665 F A X 〇七九七(八六六)六五一七
〇七九七(八六七)九八七七

年 新 賀 謹

真言宗豊山派
総本山長谷寺

化主 吉田俊誉

事務長 三津田辨秀

総務執事 渡邊隆榮

教務執事 伊東聖純

法務執事 高梨堅堂

財務執事 田嶋信雄

執事
東京出張所長 三方秀峰

奈良県桜井市初瀬七三二一〇〇一
〒633-0101 〇七四四(七)七〇〇一

曹洞宗大本山總持寺

貫首 梅田信隆

〒230 横浜市鶴見区鶴見二一〇二二
〇四五(五八二)六〇二二

大雄山最乗寺

山主 余語翠巖

紀綱 阿部顕瑞

副寺 豊島健生

外役寮 一同

神奈川県南足柄市大雄町一一五七
〒250-0101 〇四六五(七四)三二二一

宮崎県仏教連合会

会長 弘中誠之

〒880 宮崎市橋通東二丁目七番二五号
〇九八五(二二)五三四一

財団法人
日本佛教鑽仰会

理事長 中山静麿

〒174 東京都板橋区舟渡 四一十五一
〇三(三九六七)三二八八

真理舎

主管 友松諦道

東京都千代田区外神田三一四一一〇
〒101 〇三(三二五二)八六八三
神田寺内

本願寺築地別院

輪番
東京出張所長 北條成之

〒104 東京都中央区築地三十五一
〇三(三五四一)一一三二

大本山高尾山薬王院

〒193 東京都八王子市高尾町二一七七
〇四二六(六一)一一一五

日光山輪王寺

門跡 萩原貞興

執事長 中里昌念

〒321-14 栃木県日光市山内二三〇番地
〇二八八(五四)〇五三一

大本山成田山新勝寺

貫首 照碩

〒286 千葉県成田市成田一
〇四七六(二二)一一一一

日蓮宗

大本山 池上本門寺

貫首 田中日淳

〒146 東京都大田区池上一一一一
FAX 〇三(三七五)二三三一
〇三(三七五)三三五〇

第十一回因基大会開催

本会主催の第十一回因基大会（後援・仏教タイムス社、日本棋院）が、去る十一月十二日に、東京巢鴨の高岩寺で開催された。

今回の大会は来馬規雄実行委員長のご好意により、御自坊の高岩寺を会場に、本会加盟宗派・団体から約二十名の僧侶棋士が参加。東京下町の信仰を集めるとげぬき地藏を祀る境内の喧噪の中、会場となった信徒会館では熱戦が繰り広げられた。

午前十時から開会式、籙本事務総長の挨拶につづき、来馬規雄実行委員長のルール説明の後、参加者はそれぞれの段級に応じて四クラスに分かれ、対局がはじまった。競技は



優勝カップを受ける児玉師

トーナメント方式、午後五時半まで一人が四局の対局を行った。

午後から決勝戦。Aクラス（五段以上）は例年のごとく九名の強豪がひしめく激戦区。その中から勝ち残った、児玉文明師（浄土真宗本願寺派）と川島宏之師（高野山真言宗）が決勝対局。児玉師がみごと優勝した。

競技の結果は次の通り。（敬称略）

Aクラス（五段以上）

優勝 児玉 文明（浄土真宗本願寺派）

準優勝 川島 宏之（高野山真言宗）

Bクラス（三・四段）

優勝 金子 泰嶽（臨済宗建長寺派）

準優勝 白川 良純（真宗大谷派）

Cクラス（初・二段）

優勝 石川 恒彦（日蓮宗）

準優勝 桑田 凌雲（浄土真宗本願寺派）

Dクラス（一級以下）

優勝 渡井 和佳（高野山真言宗）

午後六時から表彰式が行われ、各クラス優勝、準優勝者には籙本事務総長から全仏カップ並びに楯と記念品が、それぞれに授与された。その後、懇親会が行われ、参加者は因基を通して、宗派を越えた親睦をはかった。

事務局録事

十二月

三日 世界人権宣言四十五周年東京大会
七日 局内会議

文化庁会議出席

八日 第十三回部落解放埼玉県研究集会

九日 東京都仏成道会参列

同和委員会

法律相談室

十三日 日宗連理事會

十五日 東京ブレイストクラブ成道会参列

二十七日～三十日 WFB執行委員会出席

寺院用具

浅草通り五鳳会加盟店

株式会社 決田商店

東京都台東区寿2-10-9（地下鉄田原町駅前）

電話 代表 (3841) 4965